

た初期の頃の姿を呈するえんま様の石仏は、珍しい笑い顔をなさっている。

10 電神様 りゅうじんさま ●神津島港入り口 地図B3

神津島港内の神木(かんぎ)といわれる岩場にまつられる小さな社。漁民の守り神として古くから伝えられている。周りは防波堤で波しぶきが迫り、勇壮な海の守護神の心意気も感じさせる。漁民の豊漁安全祈願の祭事には、代表者が心を込めてお参りする神聖かつ大事な場所。

11 秋葉神社 あきはじんじゃ ●神津島港から徒歩約35分 地図B2

村落東縁の小高い山の中腹にあり、村が一望できる。島民からは「あきら様」と呼ばれ親しまれている。

12 愛宕神社 あたごじんじゃ ●神津島港から徒歩約40分 地図B1

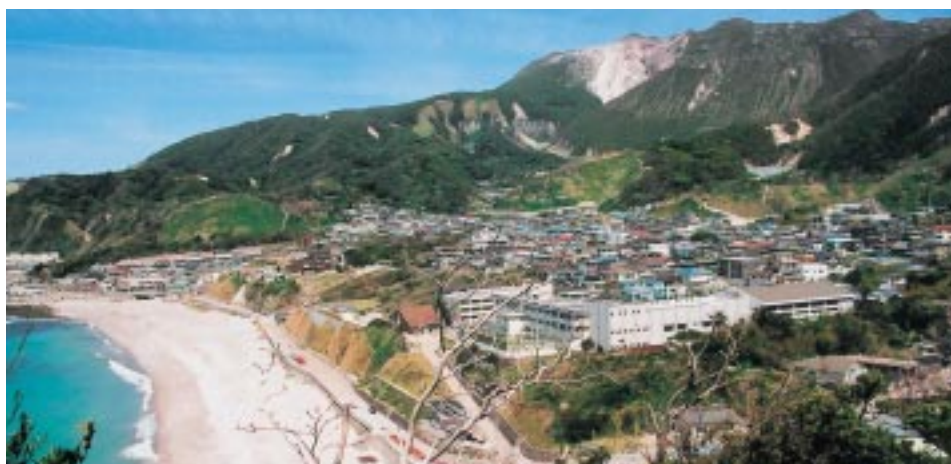
村落の東を画す山裾・神津小学校の上部にある小さな社の跡(地震による被害を受け、社は壊れている)。祭神は定かではなく、現在は参拝する人の姿はあまりない。明治40(1909)年の大雨による大水害あった当日の深夜、与種神社やこの愛宕神社周辺で「坂は照る照る東は曇る、やがて此の地は水となる」という「声」が聞こえたという。現代風に解釈すれば、鉄砲水などで地形の変化が起きるときに地形の「きしみ」ともいえる金属的な音を発するという。その音が後世「雨の神津は水が出る」という声として語られたと考えられる。ここは村落を望む格好な展望台でもある。

13 庚申堂(御殿山) こうしんどう ●神津島港から徒歩約30分 地図A2

村落北側の山稜にある小さな社で青面金剛をまつるとされる。その昔は立派な神殿があって御殿山の名が残された、と推測できる。社の裏手には大威徳明王(西方を護る阿弥陀如来の変化)とされる石仏が置かれている。これは、風神でもある摩利支天の姿ともいわれる。いずれにしても村落の北西側からの疫災を防備する役割を果たしているのだろう。

14 郷土資料館 きょうどしりょうかん ●神津島港から徒歩約10分 地図B2

明治39年に建てられた旧役場の建物に、近代建築を増設した資料館。島の歴史と貴重な文化財を保存、継承している。館内では考古学的に珍しい出土品、島の歴史を物語る文献・古文書、島民の昔の生活を物語る民具、江戸期の難破千石船の遺物など古代から近代まで、島の歴史をビジュアルに展示している。
【入館料】大人・300円 15歳未満100円(20名以上団体割引あり)【開館日】土曜・日曜・祝祭日、7月中旬～8月下旬は毎日



村落内の名所と史跡

神津島村の村落は東西0.6㎞、南北1.1㎞ほど。三方を山が取り巻き、西に太平洋の前浜海岸が開けた豊かな自然環境にあります。この村落内に島の守護神ともいべき物忌奈命神社や人々の尊崇を受ける瀧響寺をはじめとする14の名所や史跡があります。それらのスポットはどれもがひそやかに落ち着いた雰囲気にあふれ、神々がかわす素朴で明るい島の様子を象徴しています。その一方で漁村特有の粋なイメージも伝わってくるのです。(写真は神津島村全景)

観光スポットめぐり

村落内の観光は神津島港が拠点でここがスタート地点です。ここから各スポットへ。しかしどのコースで回るか、と考えるよりすぐ歩きをしましょう。辻々の道祖神のお顔を拝見しつつ、細い路地を巡って高みに上がり、前浜の大海原を展望。そして行き着いた各史跡でゆったりとした時間を過ごしたいものです。また路地では、漁師の家の庭先に魚網が干してあったり、軒先から海が見えたり、小さな感動を感じるシーンがいくつもあります。

■は史跡を、■は名所を示します。

5 琴平宮 こんぴらぐう ●神津島港から徒歩約15分 地図C3

役場の道路を隔てた向かい、「こんび」という場所にある。漁業者の信仰が厚く、島民は金比羅様と呼んでいる。拝殿には天狗の面が掲げられ、奥の祠には琴平宮がまつられている。以前には海の安全と豊漁を祈願する、漁業従事者の老婆たちの姿がよく見られた。

6 猿田彦大神と道祖神 さるだひこだいしんとどうぞじん ●地図上三叉路各所

村内の多くの三叉路には病魔や病鬼を払う神、猿田彦がまつられている。コウセン様とも呼ばれ、素朴な民間信仰として日常生活の中にとけこんでいる。この中には同じ魔よけの神として道祖神も一基残されている。



7 廿三夜様 にじゅうさんやさま ●神津島港から徒歩約12分 地図B3

昔、毎月23日(旧暦)の夜は「三夜待ち」といって神

1 瀧響寺 とうこうじ ●神津島港から徒歩約15分 地図C2

寛永16(1639)年、秀譽休山和尚が伊豆下田の海善寺の末寺として開山した浄土宗の寺で、村落内のほぼ中央に位置している。本尊は木彫の阿弥陀如来立像で室町時代末期、恵信僧都の作とされる。現在の建物は文化元(1804)年に全島民の労役によって建てられた。金文字で掲額された寺号「延命山」は文政2(1819)年4月3日、松平定信(左近の少将・寛政の改革断行者)の筆になるものだ。島民のほとんどがこの寺を菩提寺としており、朝夕2回墓地に香華が手向けられ、境内の白砂が掃き清められている。

2 ほうそう神様 ●神津島港から徒歩約25分 地図B2

村落の東、秋葉山麓の車道脇の小さな鳥居の奥にまつられている、子どもを痘瘡から守る神様。1月14日に子どもたちが団子と椿の花を供えて参拝する。帰りにトベラの小枝を山から採取して、夕刻火にくべる。痘瘡にかからないように、というおまじないの行事である。この14日は花正月とも呼ばれている。

3 物忌奈命神社 ものいみなのみことじんじゃ ●神津島港から徒歩約10分 地図B3

村の北側山裾に鎮座する神津島の象徴的存在の神社。祭神・物忌奈命は、三島大社の祭神・事代主命(因幡の白兔故事で名高い大国主命の御子。海上・漁業・商業などの守護神)と阿波命との間に生まれた御子で神津島の開祖とされる。島民の崇敬的であり、守護神でもある。本殿と拝殿はともに格調高い造り。また境内には、薬師如来をまつった神仏混淆のなごりである薬王殿が建っている。8月1、2日の2日間は例祭がおこなわれる。2日には国の重要無形文化財に指定された、「神津島のかつお釣り神事」が境内で催される。延喜式神名帳の名神大社で伊豆の国から幣帛を受けていた。

4 流人墓地 るにんぼち ●神津島港から徒歩約25分 地図C2

寛保2(1742)年、徳川幕府は「お定め書き百ヶ条」を公布し、遠島流刑地に伊豆諸島も含めた。この流刑制度は明治4年までつづき、同11年に諸島の行政が静岡県から東京府に移管された時最後の流人が許されて出島した(八丈島)。神津島には寛政8(1797)年に流刑地から外れるまで累計で83名の流刑者がいたといわれる。流人は主に政治犯や宗教犯的な罪人で、墓地にはこれらの人々が眠っている。多くは江戸時代に流刑となった日蓮宗不掣不施派の僧侶であった。なかでも日照大徳は村民の師として厚い崇敬を受けた。また、権力に屈せずキリシタン禁止令にそむいて流刑となった朝鮮貴族の娘、おたあジュリアの墓もここにある。彼女は流刑後も40年間信仰を貫き、島民に深い感銘を与えた。筐塔(きょうとう)様と呼ばれる石塔が彼女の墓と伝えられている。

- 地図記号凡例
(赤文字は名所・青文字は史跡)
- ㊦ 寺社
 - ㊧ 神社
 - ㊨ 石碑
 - ㊩ トイレ
 - ㊪ バス停
 - バス路線

